

最後まで仲間を信じて



特別版

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017

236号
2017夏

チーム錦城でつかんだ

128校中ベスト16の快挙!!

1面:5回戦を終えて

2面:インタビュー大特集!

野球部西東京大会ベスト16

野球部は第99回全国高等学校野球選手権大会西東京大会第4回戦で都立
拝島高校を破った。第5回戦では佼成学園高校に敗れベスト8には届かなか
ったが、2年ぶりとなるベスト16入りを果たした。

(編集部共同取材)

白熱した5回戦

7月22日(土)、第99回全国
高等学校野球選手権大会西東

京大会の第5回戦、佼成学園と、激しい滑り出した。4
高校との試合が府中市民球場
で行われた。
錦城は1回表から2失点



大勢の観客が見守るなか、猛暑に負けない熱い戦いが繰り広げられた



逆転へバットを振る岡部くん(3D)

に1点も取ることができず
苦しい戦いが続く。しかし5
回裏、1アウト満塁となり錦
城にチャンスが回ってくる。
勢いに乗った錦城はようやく
1点を取り返し錦城側スタン
ドはその日一番の大盛り上が
りを見せる。なおも1アウト
満塁の場面、犠牲フライで2
点目を取り返す。その後6回
表を1失点に抑えると、6回
裏、好調な滑り出して2アウ

ト1塁の場面、フェンスにま
で打球が飛び1点を取り返す
が、次のフライを取られその
回は終わってしまう。錦城は
奮闘を続けるが、8回表に2
点を追加され、10対3でコー
ルド負けとなった。



部員を励ます小筆主将

野球部の全4戦には、吹奏
楽部やダンス部を始めとした
錦城生、卒業生や錦城の先生、
一般の人も詰めかけ、野球部
の健闘を見届けた。(鴉)

最高の経験できた

主将の小筆陸太くん(3B)
は「後悔はありません。でもや
つぱり1年間しんどい思いを
してきたので悔しさがかなり
あります」と涙ぐむ。敗因は1
つではないが、キャプテンと
してみんなを勝たせてあげた
かったと語った。試合中、劣勢
でも決して諦めなかったと話
す小筆くんは「相手に最後まで
で食らいついて、追いついて
絶対勝つんだ」という心持ち
だったと振り返る。

後輩へは「生意気だし甘い
ところもたくさんあるけど、
最後に力を貸してくれた。今
年特に頑張ってくれた椎名に
対して「勝てなくて辛かっ
たけど支えてくれてありがとう
ございました」と感謝の気
持ちは表し、先輩には「いつも
迷惑をかけていたけど面倒を
見てくれて感謝しています」
と涙目で思いを告げた。



リベンジを誓う椎名くん

来年は引つ張っていつてほし
い」と期待を口にしている。
「たくさんの方に応援して
もらい後輩も頑張ってくれ
て、後にも先にもなかなか
い試合ができたので、最高の
経験になりました。これらを
糧にしてこれからも生きてい
きます」と支えてくれた人た
ちへの感謝と共に意気込ん
だ。(棟)

先輩の気持ちを胸に

今日の試合について椎名仁
太郎くん(2C)は「最初はミ
スが続いて打線も繋がらな
かったけど、途中2、3点取れて
嬉しかったです」と振り返る。
試合中印象に残ったのも5
回に2点を取り返した場面だ
そうで、チームメイトに「こ
から繋いで逆転しよう」と声
をかけたという。

2回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
都立国立	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
錦城	1	0	0	0	0	0	2	1	X	4
3回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
成城学園	0	1	0	0	2	0	1	0	0	4
錦城	3	0	0	0	0	0	2	4	X	9

4回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
都立拝島	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
錦城	3	0	0	0	0	1	2	2	X	8
5回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
佼成学園	2	0	2	3	0	1	0	2	X	10
錦城	0	0	0	0	2	1	0	0	X	3

でプレーすることだそう
で「ベスト8に入って、自分
たちが先輩たちを神宮球場に連
れていきたい」とリベンジを
誓った。(紅)

心強い応援に感謝

ここまで熱戦を繰り広げてきた野球部。投手やマネージャー、監督、そして声援を送り続けた吹奏楽部、OB、父母会に試合を終えての思いを聞いた。



感謝の言葉を口にする藤田くん

最前線のピッチャーは
ピッチャーの藤田京之介くん(3C)は「ベストゲームではなかったですが、これまで培ってきた粘り強さが中盤に出せたことで、自分たちの成長を感じることが出来ました。後悔はありません」と語る。交代して入った直後に、



炎天下、声の限りに選手を応援する野球部と吹奏楽部の部員たち

校成学園にホームランを打たれたことが印象的だったそうだ。「初球でいきなり打ってきたので流石だなと思いましたが」と述べた。
野球部の仲間には「ピッチャーと認めてくれてありがとう。最高の仲間に出会えて感謝」。全ての指導者の方には、自分をここまで成長させてくれたことに感謝を表した。「2年前と同じくベスト16で止まってしまうことが後輩たちからやってくれたいと信じています」と期待を寄せる。「頑張れ」と言ってもらえたのが心強かったのだ、これからは野球部の応援をよろしくお願いします」と結んだ。(泰)

国立戦の前には「神宮に行くころ」など一人ひとり違うメッセージを添えた御守りを2年生のマネージャーと作り、部員に渡したという。その後3年生の部員が寄せ書き入りのアルバムと一緒にシュシュをプレゼントしてくれたそう。試合中はそのシュシュで髪を結んでいた。「3年生が一人2、3針ずつ縫ってくれたそうです」と嬉しそうに話していた。(泰・英)

応援してもらえチームに
「3年生の悔しい思いを2年生が繋げて、みんなに応援してもらえるチームになってほしい」。監督の郷野康輔先生は試合を振り返り、楽しかったと笑う。皆が同じ方向を向くのに時間がかかって大変だった岡和泉さん(2C)。「頑張った」と苦勞を語るも「自分が言わなくても自分たちでやるべきことが出来ていて、各々で動けるようになった」と嬉しそうに話した。部員が精神的に楽になるよう、相手に先に点を取らせないことを意識しこたわっていたが、今回それが出来なかったという。3年生には、よくやったとねぎらいの言葉をかけたといふ微笑んだ。
今後の目標は錦城の名前を上げることだと話す先生は、思う存分暴れてこい、とこれからを担う部員たちにメッセージを送った。(碧)



選手と3年間歩んできた白井さん

吹奏楽部は試合中、演奏と声援で球場を大いに盛り上げた。野球部から頼まれた15曲の練習は定演後から始めた。楽器を吹く人は声が出せない分、音で気持ちを届けるようにしたという。
5回戦の応援は今までの中で

部員を支えたマネージャー
マネージャーの白井彩楓さん(3J)にこれまでの苦勞を聞く。「部員より歩引いた位置にいたので、どうしても部員の苦しみやキャプテンと部員の温度差が分かってしまいうので辛かった」と振り返る。

「3年生の悔しい思いを2年生が繋げて、みんなに応援してもらえるチームになってほしい」。監督の郷野康輔先生は試合を振り返り、楽しかったと笑う。皆が同じ方向を向くのに時間がかかって大変だった岡和泉さん(2C)。「頑張った」と苦勞を語るも「自分が言わなくても自分たちでやるべきことが出来ていて、各々で動けるようになった」と嬉しそうに話した。部員が精神的に楽になるよう、相手に先に点を取らせないことを意識しこたわっていたが、今回それが出来なかったという。3年生には、よくやったとねぎらいの言葉をかけたといふ微笑んだ。

「みなさんお疲れ様でした!!!」



試合の観戦に来ていたOBの大久保陽さん(51回生)、安瀬篤志さん(51回生)、光居大輔さん(52回生)にも話を聞いた。「ここまで3勝してベスト16になり、今回の相手はシード校で苦しみなながらもよく頑張った。お疲れ様」と後輩たちを励ました。3年生へは「この経験を大切に、これからの人生頑張ってください」と、2年生へは「この成績を超えて、神宮球場を目指してください」とそれぞれエールを送った。
また父母会として応援に来ていた後藤泰秀さんは「試合で力を出し切り、一生懸命頑張った子どもたちを褒めたいです」と話す。試合へ向ける気持ちは選手たち自身で作るものだと後藤さんは思っている。試合前は言葉を掛けられないようにしたという。最後に「3年生お疲れ様でした。これからは新しい目標に進んでいってほしいです」と微笑んだ。(棟)